

2025年8月28日(木)

ランチョンセミナー

🌱 2025年8月28日(木) 12:20 ~ 13:20 🏢 2201教室(教育研究棟 2街区 2階 2201)

[RS-03] ランチョンセミナー③／アーカイブティップス株式会社

協力:アーカイブティップス株式会社

座長:村井 楓子(アーカイブティップス株式会社)

※当日8:15から受付窓口『7番』にて食事券を配布します。(先着順定員制)

[ランチョン3]

北海道日本ハムファイターズのスポーツサイエンスを活用した選手育成の取り組み
動作解析の導入背景と活用事例

*山口 雄大¹ (1.株式会社北海道日本ハムファイターズ ベースボールオペレーション部)

ランチョンセミナー

🌱 2025年8月28日(木) 12:20 ~ 13:20 🏢 1302教室(教育研究棟 1街区 3階 1302)

[RS-04] ランチョンセミナー④／公益財団法人ヤマハ発動機スポーツ振興財団

協力:公益財団法人ヤマハ発動機スポーツ振興財団

座長:伊坂 忠夫(立命館大学副学長スポーツ健康科学部教授)

※当日8:15から受付窓口『7番』にて食事券を配布します。(先着順定員制)

[ランチョン4]

スポーツの歴史と文化と価値

*阿部 衛¹、三谷 舜² (1. 東京大学大学院総合文化研究科、2. 中京大学スポーツ科学部)

ランチョンセミナー

🌱 2025年8月28日(木) 12:20 ~ 13:20 🏢 2301教室(教育研究棟 2街区 3階 2301)

[RS-05] ランチョンセミナー⑤／一般社団法人大学スポーツ協会

協力:一般社団法人大学スポーツ協会、株式会社KEIアドバンス

座長:一般社団法人大学スポーツ協会

※当日8:15から受付窓口『7番』にて食事券を配布します。(先着順定員制)

[ランチョン5]

ジェネリックスキル調査から考える運動部学生の育成支援
探究型教材を活用した学生の課題解決力の強化

*山本 啓一¹ (1. 北陸大学教授)

ランチョンセミナー

📅 2025年8月28日(木) 12:20 ~ 13:20 📍 2201教室(教育研究棟 2街区 2階 2201)

[RS-03] ランチョンセミナー③／アーカイブティップス株式会社

協力:アーカイブティップス株式会社

座長:村井 楓子(アーカイブティップス株式会社)

※当日8:15から受付窓口『7番』にて食事券を配布します。(先着順定員制)

[ランチョン3]

北海道日本ハムファイターズのスポーツサイエンスを活用した選手育成の取り組み
動作解析の導入背景と活用事例

*山口 雄大¹(1.株式会社北海道日本ハムファイターズ ベースボールオペレーション部)

ランチョンセミナー

📅 2025年8月28日(木) 12:20 ~ 13:20 📍 2201教室(教育研究棟 2街区 2階 2201)

[RS-03] ランチョンセミナー③／アーカイブティップス株式会社

協力:アーカイブティップス株式会社

座長:村井 楓子(アーカイブティップス株式会社)

※当日8:15から受付窓口『7番』にて食事券を配布します。(先着順定員制)

[ランチョン3] 北海道日本ハムファイターズのスポーツサイエンスを活用した選手育成の取り組み

動作解析の導入背景と活用事例

*山口 雄大¹ (1.株式会社北海道日本ハムファイターズ ベースボールオペレーション部)

プロ野球は、レギュラーシーズン約140試合（1軍：143試合、ファーム：120 - 140試合）を戦い、その勝率で順位を決めるスポーツである。この試合数は他のプロスポーツと比較しても非常に多く、プロ野球選手はこの過酷なスケジュールの中で、コンディショニングの維持、身体づくりや野球技術の習得が求められる。当球団ではこうした環境下で計画的かつ効果的な選手育成を行うために、スポーツサイエンスを活用した育成システムの構築を進めており、その一環として、2024年から動作解析システムを導入し、スポーツバイオメカニクスの観点から選手の技術評価を始めた。

野球のパフォーマンスを規定する変数はいくつか存在するが、投手では球速が一般的に用いられており、当球団においても同様である。一方、打者では打球速度を高めることが重要であるが、これに最も深く関わるスイング速度のみでは選手のパフォーマンスを正しく評価することは難しく、打者に対する動作解析を用いた介入方法には検討の余地がある。

本発表では、当球団における動作解析を活用した選手育成の取り組みについて具体例を交えながら紹介し、より良い介入方法について模索・検討していきたい。

ランチョンセミナー

📅 2025年8月28日(木) 12:20 ~ 13:20 📍 1302教室(教育研究棟 1街区 3階 1302)

[RS-04] ランチョンセミナー④／公益財団法人ヤマハ発動機スポーツ振興財団

協力:公益財団法人ヤマハ発動機スポーツ振興財団

座長:伊坂 忠夫(立命館大学副学長スポーツ健康科学部教授)

※当日8:15から受付窓口『7番』にて食事券を配布します。(先着順定員制)

[ランチョン4]

スポーツの歴史と文化と価値

*阿部 衛¹、三谷 舜² (1. 東京大学大学院総合文化研究科、2. 中京大学スポーツ科学部)

ランチョンセミナー

📅 2025年8月28日(木) 12:20 ~ 13:20 📍 1302教室(教育研究棟 1街区 3階 1302)

[RS-04] ランチョンセミナー④／公益財団法人ヤマハ発動機スポーツ振興財団

協力:公益財団法人ヤマハ発動機スポーツ振興財団

座長:伊坂 忠夫(立命館大学副学長スポーツ健康科学部教授)

※当日8:15から受付窓口『7番』にて食事券を配布します。(先着順定員制)

[ランチョン4] スポーツの歴史と文化と価値

*阿部 衛¹、三谷 舜² (1. 東京大学大学院総合文化研究科、2. 中京大学スポーツ科学部)

公益財団法人ヤマハ発動機スポーツ振興財団は、スポーツを通じ、夢の実現や、より高い目標に向かってチャレンジするアスリートや研究者を応援しています。本セミナーでは、YMFSスポーツチャレンジ研究助成卒業生による、研究発表を行います。

◆阿部 衛 東京大学大学院総合文化研究科 (YMFS研究助成 第17・18期)

「古代ローマ帝政前期における運動競技」

「ローマ帝政前期、ローマ帝国が地中海世界で覇権を確立する中、オリンピア祭に象徴される古代ギリシアの運動競技祭は急増し、地中海全域に広がって国際的な性格を強めた。本報告では、これまでの政治的・文化的な視点に偏った分析を見直し、競技そのものの社会的意義に注目する。特に競技を担った「競技者」の活動や社会との関わりを明らかにすることで、当時の運動競技のあり方や身体文化の特徴を新たに考察しようとするものである。」

◆三谷 舜 中京大学スポーツ科学部 (YMFS研究助成 第14期)

「スポーツ用具と社会の関連に着目した研究の着想と展開：『軟式ボールの社会学』より」

「近代スポーツの日本的解釈」として、軟式ボールによる野球、ソフトボール、テニスを位置付けた『軟式ボールの社会学』（三谷舜2025）は、スポーツ用具と社会の関係に着目した研究である。本書は、「軟式ボール」に注目することで、スポーツを構成する「用具」が、おもしろさなどの内在的価値をいかに創造し、それを人々がどのように受容・発展させてきたのか、その力学を明らかにしようとするものである。本ランチョンセミナーでは、軟式ボールによる競技を「近代スポーツの日本的解釈」として位置付けるまでの検討過程と、その社会学的な射程に加え、着想の契機や研究デザインの構築過程について報告する。

ランチョンセミナー

📅 2025年8月28日(木) 12:20 ~ 13:20 📍 2301教室(教育研究棟 2街区 3階 2301)

[RS-05] ランチョンセミナー⑤／一般社団法人大学スポーツ協会

協力:一般社団法人大学スポーツ協会、株式会社KEIアドバンス

座長:一般社団法人大学スポーツ協会

※当日8:15から受付窓口『7番』にて食事券を配布します。(先着順定員制)

[ランチョン5]

ジェネリックスキル調査から考える運動部学生の育成支援

探究型教材を活用した学生の課題解決力の強化

*山本 啓一¹ (1.北陸大学教授)

ランチョンセミナー

📅 2025年8月28日(木) 12:20 ~ 13:20 📍 2301教室(教育研究棟 2街区 3階 2301)

[RS-05] ランチョンセミナー⑤／一般社団法人大学スポーツ協会

協力:一般社団法人大学スポーツ協会、株式会社KEIアドバンス

座長:一般社団法人大学スポーツ協会

※当日8:15から受付窓口『7番』にて食事券を配布します。(先着順定員制)

**[ランチョン5] ジェネリックスキル調査から考える運動部学生の育成支援
探究型教材を活用した学生の課題解決力の強化**

*山本 啓一¹ (1.北陸大学教授)

2023年～2024年にかけてUNIVASがアカデミックパートナーのKEIアドバンスと共同で実施した「運動部学生におけるジェネリックスキルに関する調査研究」の結果を基に、運動部学生の社会人基礎力の特徴を捉え、運動部学生をどのように育成していくかについて、UNIVASとKEIアドバンスが提供する学習支援教材「運動部学生のためのスポーツ探究ことば入門」を活用した支援プログラムを、本教材の制作協力者の一人である北陸大学の山本啓一教授をお迎えしてお話しいたします。

調査結果から、運動部学生は一般学生と比較して対人基礎力や対自己基礎力などのコンピテンシーが高い一方で、知識を活用して課題を解決するリテラシーが低い傾向があること、また、コンピテンシーの中でも対課題基礎力に一般学生との有意差が認められないなどの傾向が示されました。こうした特性を踏まえ、運動部学生の課題解決力をどのように育成し、競技と学修を両立させる環境を整備するかについて考察するとともに、現場での指導・育成の工夫を紹介し、参加者の皆さまと共に実践につなげるヒントを共有する場とします。